

清水港・みなと色彩計画

1 社会資本の概要

清水港は、世界文化遺産の富士山・三保松原の自然景観と調和した風景により、神戸港や長崎港と並び、日本三大美港の一つと評されています。東名高速、国道1号、JR東海道線と近接する好立地を活かし、平成25年には新興津コンテナターミナルが完成、超大型貨物船にも対応可能な高規格・最新鋭



日本三大美港の清水港

の機能が備わる国際貿易港として、県内及び中部日本経済を支えています。また、平成11年の開港100年を機に、清水港周辺には商業施設や博物館、文化施設が整備され、ウォーターフロントを活かした多彩なイベントの開催や大型クルーズ船の寄港地としても大きく飛躍しています。



国内有数の輸出港である清水港

2 取組の背景、取組概要と創意・工夫

清水港・みなと色彩計画は、平成3年に全国に先駆けて策定した色彩ガイドプランです。この計画は、工業地化し、市民が立ち寄れなくなった港湾空間に、生活機能を取り戻そうと女性グループ「レディズ・マリン・フォーラム」の提言の一つから始まりました。取組みの特長としては、「世界に誇れる美しいみなとまちづくり」をリードするシンボルカラー（アクアブルーとホワイト）を設定し、港湾機能ごとの空間イメージを定めた配色構成・全体計画により、清水港独自の景観づくりを進めています。また、推進体制として、産

学官民による協議会を設置、助成制度等がないため、計画当時は、地域の理解が得られず、実効性が危ぶまれましたが、施設や工作物の新築や増改築、塩害防止のための塗替えなどの維持管理時期を捉えた無理のない仕組みとしたことや、アドバイザーによるCGシミュレーション、配色指導等、きめ細かな運営体制を築き進めています。清水港の景観を共有財産として協働による参画型地域づくりを目指し、住む人、働く人、国内外から訪れる人達に産業活力と賑わい、憩いある共創空間づくりを展開しています。



清水港・みなと色彩計画ビフォー（紅白のガントリー）



清水港・みなと色彩計画アフター（アクアブルーのガントリー）



多くの地域関係者と共に認定証授与式



静岡県静岡市
清水港・みなと色彩計画推進協議会

3 活動の成果や波及効果等

計画策定から四半世紀、清水港を愛するみなさんの思いは、美しいみなと景観を醸成し、現在もその景観に厚みを重ねています。清水港はいま、世界から人が集まる国際文化交流拠点となりました。そして、住む人、働く人にとっても、美しく賑わいのある港は、誇りと価値を創出し、郷土愛を育む場となっています。



民間活力による賑わいあるみなとづくり

4 前回受賞時からの活動の発展内容

平成20年には、この計画を象徴する新たなランドマークとして、シンボルカラーに彩られた観覧車が建設されました。同時に清水港の賑わい拠点となる日の出地区が、地域の総意により、静岡市景観条例による景観計画重点地区に指定されました。この計画が育んだ景観づくりや賑わい創出への情熱は、時代を超えて「共創によるみなと文化」を築きあげ、これからも、その意志を受け継ぎ、進化していきます。

喜びの声



受賞者

清水港・みなと色彩計画推進協議会
代表 望月 薫
アドバイザー会議 座長 東 恵子

コメント

名誉ある大賞に認定されたことはこの上ない喜びです。殺伐とし市民の立ち寄りなかつた港への想いを集め、四半世紀の間、清水港の景観を共有財産とし、それぞれの立場、役割から心をひとつに取り組みました。共に歩んだ皆様に心から感謝申し上げます。次世代に港文化をつないでまいります。

活動内容

色彩計画によるみなとまちづくり

活動の経緯

- 平成 3年 清水港・みなと色彩計画策定
- 平成 4年 協議会発足
- 平成 5年 ガントリークレーン6基
- ～9年 日本で初のシンボルカラーによる塗替え
- 平成11年 清水港開港100周年
- 平成20年 清水港日の出地区
静岡市景観計画重点地区に指定
- 平成24年 大規模太陽光発電施設建設
- ～27年 企業の自主的な取組みにより
青色ソーラーパネルを採用

所在地

静岡県静岡市清水区

活動主体及び連絡先

清水港・みなと色彩計画推進協議会
(054-354-2432)
※功労者名：東 恵子

対象となる社会資本

清水港 及び その周辺
※管理者：静岡県（港湾管理者）静岡市



手づくり郷土賞について

公開審査会について

講評

大賞部門

一般部門

資料集